



環境公共 通信

“地域づくりの新しいかたち” 環境公共



第28号 平成28年2月
発行／環境公共推進会議事務局
〒030-8570 青森市長島1-1-1
青森県農林水産部農村整備課内
TEL 017(734)9545 FAX 017(734)8153

■最近の話題

「地域と企業がつながる水循環フォーラム」が開催されました

平成28年1月22日、青森市のウェディングプラザアラスカにおいて、「地域と企業がつながる水循環フォーラム」が開催され、農林漁業者、地域住民、NPO法人、企業、行政などの関係者が多数参加しました。本フォーラムは、持続可能な「水循環システム」の再生・保全に向けた取組を推進するため、関係者が一堂に介し、安全・安心な「水資源」を確保していくための連携・協働のあり方を共に考え、意識の共有を図るために開催されました。

開会に当たり、三村知事から「農林水産業は自然や環境に負荷を与えるものであるが、だからこそ、山・川・海の水の流れの中で仕組みを整え、環境との調和・保全を図っていく施策を進めてきた。我々のきれいな水、健康な土、豊富な人財の3つの基盤を活かして、攻めの農林水産業をさらに進めていきたい。本日のフォーラムが、水資源との関わり方、水とはどういうものなのかを考え、一人ひとりが水のことを考えた行動を進めていくきっかけになることを期待します。」と挨拶がありました。その後、キリン株式会社CSV本部CSV推進部の山村宜之主査から「キリンの水源の森活動～社会との共有価値の創造の一環として～」と題して基調講演があり、続いて「地域と企業とのよりよい協働に向けて」をテーマにパネルディスカッションが行われました。



【三村知事あいさつ】

「農業農村整備パネル展」が開催されました



【パネル展示】

平成27年12月1日から6日までの6日間、つがる市のイオンモールつがる柏において「農業農村整備パネル展」が開催されました。このパネル展は、県内で行っている農業農村整備事業への理解を深めてもらうことを目的に、あおもり農村整備広報委員会が開催したものです。今回は、身近にある農地や農業用水などが地域の手で守られていることを、より多くの皆さんに知っていただくため「農業用水路で生きものを調査する子どもたちの姿」や「地域ぐるみで農業用水路の草刈り作業を行っている様子」など、地域で行われている「多面的機能支払」の取組をパネルで紹介しました。

また、パネル展示中の土日は、水環境や環境保全への理解を促すため、折り紙で豊かな農村風景を再現するイベントも行われ、たくさんの子供たちが参加していました。

■「環境公共」事例紹介

北三沢地区（三沢市）

～地域農業の再生と環境との共存～

1 地区の概要

本地域は、低平湿田で転作が困難なことに加え、「やませ（冷たく湿った北東風）」の影響や受益者の高齢化などにより離農が加速し、耕作放棄地の増加や耕作水田の散在化が進行していました。

このため、水田の乾田化や集約による大規模な営農が可能となるよう、平成 22 年度から県営北三沢地区ほ場整備事業が実施されました。



【ほ場整備後の北三沢地区全景】

2 農業と環境の共存を目指した取組



【北三沢地区と八幡地区】

本地区はラムサール条約登録湿地である仏沼に隣接しており、オオセッカをはじめ、希少な動植物が確認されています。このため、事業を進めるに当たり、「農業と環境の共存」を目指す取組の展開を目的に、平成 22 年 7 月、地域農業者や環境保護団体で構成する「北三沢地区環境公共推進協議会」を設立しました。

協議会では、オオセッカの繁殖時期である 5 月から 9 月は工事の実施を避けるとともに、環境の激変を緩和するため、地区を南側 60ha と北側 40ha の 2 工区に分け、面工事の施工年度をずらして行うことや、排水路にワンドや小動物脱出用スロープを設置することを決めるなど、事業実施期間はもちろんのこと事業完了後の「農業と環境が共存した地域のあり方」までも見据え、話し合いを行いました。

物脱出用スロープを設置することを決めるなど、事業実施期間はもちろんのこと事業完了後の「農業と環境が共存した地域のあり方」までも見据え、話し合いを行いました。

3 営農状況

本地区は事業を契機に設立した農事組合法人「フラップあぐり北三沢」に整備した農地を集積し、やませ常襲地帯では難しいとされていた乾田直播栽培による飼料用米の作付けに取り組み、畜産農家との連携の下、サイレージ（WCS・SGS）の需給システムを確立し、耕畜連携による経営の安定を図っています。

こうした、ほ場の大区画化などによる耕作放棄地の解消と、地域特性を踏まえた営農の取組が評価され、平成 26 年度農業農村整備優良地区コンクールにおいて、最高賞である農林水産大臣賞を県内で初めて受賞しました。

北三沢地区の取組は、周辺地域への波及効果も高く、隣接する地区からのほ場整備事業に対する要望が高まり、平成 27 年度から八幡地区としてほ場整備事業に着手しました。



【農業農村整備優良地区コンクール表彰状】